フェアリーテイル 龍の魂を持つもの

キッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
フェアリーテイル　龍の魂を持つもの

【Ｎコード】
Ｎ３１０１Ｘ

【作者名】
キッド

【あらすじ】
フェアリーテイルの二次創作です

主人公チートはやだ～という人は、お戻りください

プロローグ（前書き）

初めまして、処女作ですが、楽しんでいただけたら嬉しいです

プロローグ

俺の名前は龍泉　ヒロキ〈りゅういずみ　ひろき〉
中学三年生だ
ちなみに今は本屋でフェアリーテイルを買っていた

え？受験勉強？推薦で免除

俺は誰に喋っている？
まぁいい
とりあえず帰るｋ――
ドゴッ

何だ？何の音だ？

なんだ、俺が居眠り運転のトラックに惹かれただけか

ちょっと待て！！
此処にいる俺何！？

《魂一つ御案内》

此処はどこだ？

「あ、起きた？」
何？この人
「私？私は神」
うわぁ～
「何その変な人を見る目は」
確か、腕のいい精神科医いたかな～
「私は正常です！」
心を読みやがった
「神ですから」
認めるか
「神が何の用ですか？」
「やっと喋った
実はあの事故は本来はなかった物
私が当番の時に」
「何があったんだ」
「ゲームしてて見張るのをサボって――」
「シネやこのダメ神がぁぁぁぁぁぁ！！」
俺の拳をかわした？
「死にたくないよ」
「で、どーすんだ？」
「君にはフェアリーテイルに転生して貰いまぁ～す」
軽く言いやがった
「願い５個聴くからさぁ」
多くね？
「サービス」
「じゃあ、まず一つ俺の魔法は龍になる、龍の魂〈ドラゴンソウル〉中身は龍王バハムート、イグニール、メタリカーナ、グランディーネ、後は任せる
２つ目、魔力と精神力多め
３つ目、いずれ行く別世界でも、魔法を使えるようにしろ

４つ目、ギルドは化猫の宿〈ケットシェルター〉で
五つ目は任せる」
「了解では、さらばだぁ～」
いきなり床に穴が開いて俺は落ちた
俺の第２の人生の始まりだ

第一話　ギルド化猫の宿（前書き）

駄文かもしれませんが宜しくお願いいたします

訂正

第一話　ギルド化猫の宿

「うわぁぁぁ！」
只今落下中
ドゴォォォン
「あの糞神め・・・・・・
ってなんだこの格好！！」
俺はよくわからない格好をしていた
「しかも刀まで・・・・・夕凪？」
『や』
出たなダメ神
『そうツンツンしないで、君はツンデレかい？
ちなみにその格好は私の大好きネ〇ま！！の桜〇刹那と同じ格好だよ』
「お前の趣味を持ち込むな！」
まったく
『数分後面白い事あるよ
バイビー』
やっと消えたよ、面白い事ってなんだ？

2分後
「身体が縮んだ！？しかも頭が痛てぇ」
あれは、廃村か、休ませて貰うか
「すいませんおじいさん少し休ませて下さい・・・・・おっと、子供が寝てたのか・・・・・俺も糞神のせいで縮んだけどよ（ボソッ」
少し寝るか

◆◇◆◇◆◇

神サイド
「どうしよう
記憶消すの忘れてた
今は寝てるみたいだし、今のうちに記憶消しとこ」

◆◇◆◇◆◇
ヒロキサイド
「――――さい。――――きて下さい。――――起きて下さい」
誰だ？
「ふぁ～。・・・・・あれ？君は？」
「私はウェンディ・マーベルです」
「俺はヒロキ、以後宜しく」
「それにしてもおじいちゃん此処は何処？」
本当に此処はどこだ？
「ジェラールはギルドにつれてってくれるって・・・・」
「ギ・・ギルドじゃよ！！
此処は魔導士ギルドじゃ！！！」
ギルド・・・・此処が
「本当！？」
ギルドか何か思い出すまで此処にいよう
「自分はあなたをマスターとお見受けします。
良ければ、自分をこのギルドに入れて下さい」
「私も」
大丈夫だろうか
「わかった、おぬしらを入れよう。
外に仲間達が待っているよ。少し外を見て回りなさい」
「「わかりました」」

「良かったなウェンディ。ギルドにはいれて」
「うん♪」

１０分後
「このギルドマークはどこにつける？」
「私は右肩」
「自分は左肩」
ポン
「よし、主等２人はギルド化猫の宿のメンバーになったぞい」
「やったやった♪」
「良かったな♪」
「お主等家はどうする？」
家か
「あのヒロキさん」
「別に敬語じゃなくていいよ。
それでなんだい？」
「えっと、その・・・・一人は淋しいと言うか不安なので一緒に住みませんか？」
え？
「俺は構わないけど・・・・良いの？」
「うん♪」
「わかった」
こんな小さな子を一人には出来ないよな

第一話　ギルド化猫の宿（後書き）

次回はシャルルの卵が出ます

謎の卵（前書き）

皆様にアンケートを採りたいと思います
内容はもう六年後でオラシオンセイスの討伐に行くか
まだ、その前のサブを入れるかです

サブにするならどのようなストーリーが良いか感想でお書き下さい

書き方は前者、後者で宜しくお願いいたします

それまでしばらく更新ありません
誠に申し訳御座いません

謎の卵

ギルド入門から一年俺達はギルドに馴染んできた
「みんなぁ～」
「どうしたウェンディ？」
ウェンディが持っているのは・・・・卵？
「でかいな。目玉焼きで食うのか？」
「ナオキいいなそれ」
「いやいやバスク、卵焼きだろ」
食い意地はってんな
「駄目です。これは私が育てます！」
「何が生まれるんでしょうねマスター」
トクトクトク
ことっ
ゴクッゴクッ
「瓶飲みすんなら注ぐなよ！！」
マスターはいつもどうりだ
「そこはゆで卵じゃ！！」
ビチャビチャ
飲み干せよ！！
「てか今更かよ！」
「ウェンディ、それどうやって孵すんだ？」
「布団に入れる」
いいのか・・・・それで？
「ヒロキ、ウェンディ、お主等に依頼があるぞ」
「内容は？」
「森バルカン３０頭の討伐じゃ」
多いな！
「わかりました行って参ります」

「行ってきます
その前に卵置いてきます」

とある森
「此処だな」
ドッドッドッ
「ウホー！」
これがバルカンか
シャッ
「ウェンディ、俺の後ろに・・・・
・・・・・・参る！」
ズバッ
「ウホッ！」
「まだまだぁ！！」
ズバババババババッ
「グハッ」
一体目
「キャー！」
「ウェンディ！」
『ウッホッホー！』
群れで来たぁ！
「きりがない。
使うか・・・・・・・・・韋駄天流・・・・獄炎！！」
『ブルゥワァ』
「後何体だ？」
『ブオッホー』
「「「ウホー！」」」
あいつが頭か

「お前を狩れば後は楽だ！くたばれ！」
シュッ
かわした！？
『人間の女だ』
喋れんのかよ
「ウェンディから離れやがれ」
ドンッ
いきなり背後に衝撃が走った
しまったまだいたのか
「ガハッ！」
俺は木に衝突した
「キャー！！！」
「ウェンディ！」
「・・・・やい猿どもウェンディから離れろ」
俺は覇気に殺気を混ぜたものをバルカンにぶつけた
「・・・・・・・・・」
バルカンは無言で後退りした
「ウェンディ、こっちに」
「はい」
ウェンディの目には涙が溜まっていた
「怖かったな
刀落としたし
魔法使うか」
「え！？ヒロキさん魔法使って居なかったのですか！？」
「うん、俺がどんな風に変わっても怖がらないでね
ハァァァァ！！
ドラゴンソウル！！」
龍王バハムート
「あわわわわ」
バルカンは逃げだしそうだった

「逃がさん
メガフレア！！」
『グウォ』
俺は龍状態から龍人状態になった
「クエスト完了。
帰ろうか」
「あの、ヒロキさん」
ウェンディに呼び止められる
「森、一部木がない」
多分メガフレアが原因だな
俺は魔法を解いた
「とりあえず卵が気になるし帰ろう」
「あ、は、はい」

ギルド
「帰りました」
「ただいま帰りました」
「お帰りなさい
クエストは成功じゃな」「はい、ただ、森を一部壊してしまいました」
『『一体何したんだよ！！』』
「あわわ。
た、卵が」
ポン
『『『猫ぉ～！？』』』
何故卵から猫が？
「名前どうする？」
「「「・・・・・・・・」」」

「シャルル」

「ウェンディいいのか・・・・それで」

「良いよね。シャルル」

「良いわよその名前で」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・は？

『『『猫が喋ったぁぁぁぁぁ！！？』』』

「ウェンディがこいつの飼い主になるんだな」

「頑張ります！」

※キャラクター設定（前書き）

アンケートの回答例を出します

1　まだ少しサブストーリーを入れる
内容
ヒロキとウェンディが街に買い物

例その2
1　オラシオンセイス討伐に行く

宜しくお願いいたします

※キャラクター設定

名前　ヒロキ
生前　龍泉　ヒロキ
ダメ神のミスで死んでフェアリーテイルに転生した
姿は
オラシオンセイス討伐時にはナツと同じくらい
服はネギま！！の桜咲刹那の烏族の服
武器は夕凪、韋駄天流（オリジナル）を使う
魔法は龍の魂（ドラゴンソウル）
中身は
龍王バハムート
火龍イグニール
鉄龍メタリカーナ
天龍グランディーネ
水龍アクアビクス
氷龍ブリザーナ
雷龍ボルテクス
地龍グランドル
光龍フラッシャー
闇龍ダークネス
風龍トルネーガ
縁龍グリダガー

いつも夕凪で戦闘をしているため、ウェンディしかこの魔法を知らない

見た目

髪の色紫　目は赤い

ドラゴンソウルは普通の龍状態と龍人状態（ドラゴニュートモード
とヒロキは読んでいる）
になれる

第3話　休暇（前書き）

アンケートの返事が来ない
これじゃ書けないよぉ～
仮にもこのネタしか思いついません（汗）
皆様よろしくお願いいたします

第3話　休暇

シャルル誕生から6年
ヒロキとウェンディの家
「ウェンディ！シャルル！朝飯できたぞ」
「はーい」と二階からウェンディの元気な返事が聞こえる
朝飯はギルドの後ろの森にある木の実を塗ったトーストだ
「美味しそうですね♪」
「ほんとよね」
美味しそう・・・・か
「美味しそうじゃない、美味しいんだ」
いただきますと同時にパンにかぶりつくウェンディとシャルル
「とりあえず俺は外にいる、食べ終わったら来い」

シュッ
シャシャシャシャシャ
「腕は大丈夫、なまってないな」

「ヒロキさん」
来たか
「よし行くか」

ギルド
「マスター来ました」
「話って何ですか？」

俺とウェンディはマスターに呼び出されたのだ
「おぬしらに休暇を与える」
・・・・・・・休暇？
「おぬしらいつもクエストばかりで疲れておるだろうから休暇をと思っての」
「そのお気遣い感謝します」
「ありがとうございますマスター♪」
休暇かどこ行くかな
「このお金を使いなさい」
「マスターそんな」
「よいからよいから」
言葉に甘えるか
「感謝します」
「いってらっしゃい」
休暇を貰ったは良いが・・・・
「ヒロキさん、あの、マグノリアに行きたいのですけど良いですか？」
マグノリアか、いいな
「良いぜ」
シャルルはどうしよ
「私はいいわ、２人で行ってきなさい」
「シャルルいいの？」
「そのかわりお土産よろしくね」

マグノリア
「つきましたー！」
「さてと何処からいく？」
「この洋服店はどうですか？」
ウェンディがガイドブック（いつの間に出したんだ？）を見ながら
言った
「良いぜ」

Ｖｅｎｕｓ
「うわぁ～服が沢山ありますね♪」
「そうだな」
「ヒロキさん着てみました」
早ッいつの間に
しかもウェンディが着ていたのは
「・・・・何故・・・・巫女装束なんだ・・・・」
そう巫女装束なのだ
何故あるのかは不明
「これはどうですか？」
「・・・・次はメイドかよ・・・・
ウェンディガイドブックを見せてみろ」
「はい」
俺はウェンディが持っていたガイドブックを見てため息をはいた
『コスプレ洋服店Ｖｅｎｕｓ』
コスプレ専門店かよ！
「ヒロキさんこれ着てください」
とりあえずウェンディに渡された服をきた
「・・・・忍装束・・・・だと」
「似合ってますよヒロキさん♪」
あまり嬉しくない

Ｖｅｎｕｓではウェンディが何故か巫女装束を買った
「次はどうする？」
「あそこのアクセサリー店はどうですか？」
アクセサリーかぁ良いな

アクセサリー店ニコニコ
テキトーすぎんだろが！！
「いろんな物があるな」
「・・・・・・・・・・・・（ジー）」
ウェンディから返事がない
「欲しいのか？
ペアリング、相手の魔力をリングに与えるとその相手と念話ができる」
良いなこれ
「買うか？」
「・・・・・（コクコク）」

俺たちはアクセサリー店でリングを買った後色々な場所を周り、帰った

電車内
「今日は楽しかったですね～」
「そうだな」
「せっかくだリングに魔力を入れるか」

（魔力注入中）

「入ったぞ
ほい」
「私も終わりましたはい」

皆に買ったお土産を渡してくるか

ギルド
「マスターマグノリアの土産です
マグノリア酒
メンバーにはクッキーだな」
「おお、ありがたい」
「「「サンキューで～す」」」
こらこらこらそのネタ禁止

シャルルにも土産のチョコを渡した
シャルルが固まっていたので理由をきくとウェンディの巫女装束らしい
「（あれは確かになWWW）」

六魔将軍討伐任務・・・・・・?（前書き）

大丈夫かなぁ～f^_^;

訂正

六魔将軍討伐任務・・・・・？

ギルド
「ふぁ～、ねむ」
「ヒロキよ、寝不足か？」
「あ、マスター、おはよーです」
「お主に任務に行ってほしい」
任務、その言葉で目が覚めた
「どんな任務ですか」
「闇ギルド、六魔将軍討伐じゃ」
闇ギルド！？
「ウェンディは行くきじゃ」
「行きます。
俺はウェンディの剣であり盾ですから」
「早速出発してほしい」
「了解」

集合場所への道
現在某ラーメン好き忍者よろしく木の上を跳んでいる
「ウェンディ、落ちるなよ」
「は、はい！」
ぎゅ～
ウェンディが強く抱きしめてくる

あれか
「見えた、集合場所だ」
タン

ヤベッ跳びすぎた！！
「シャルル、ウェンディを頼む」
「あんた、どうする気？」「行くぜ
韋駄天流・・・・・・・疾風燕弾（しっぷうえんだん）」
俺が夕凪をふると、鳥の形をした風圧が飛んでいく
ドゴーン
「よし、入るぞ」

「到着！」
「何してんのよ！！」
シャルルに怒られた
「ぶつかったら痛いだろ！」
「だからって壊す必要ないでしょ！」

ルーシィsideハァ、なんであたしがこの任務に？
ドゴーン
なに！？いきなり天井が壊れたんですけど！？
「到着！」
人が降りてきた
「何してんのよ！！」
ねこが喋った、ハッピーと一緒か、
「ぶつかったら痛いだろ！」
そんな理由で天井壊したの！？
「だからって壊す必要ないでしょ！」
もう何が何やら

ヒロキside
何だ？やけに静かだな
「シャルルが喋るからみんな驚いてるじゃないか」
「あんたが天井壊すからでしょうが！」
「そういやぁ自己紹介してなかったな、化猫の宿から六魔将軍討伐を命じられやってきたヒロキだ」
「同じくウェンディです、よろしくお願いします」
「これで全てのギルドがそろった」
「話進めるのかよ！！！」
え、なに？あの人進行重視？
「こんな、二人だけだなんて、化猫の宿はどういうおつもりですの？」
「こういうおつもりですの～♪ってか、アッハハハハ」
「ヒロキさん、からかっちゃダメですよ」
へーい
「さ・・・・お嬢さんこちらへ・・・・」
チャキ
「ウェンディに何してんのかな？」
「な、はやい！」
「たの二人、なんという香りだ・・・・・・
ただ者ではないな
男は邪魔だが」
「オッサンから消すよ♪」
「とりあえず作戦の説明だ

その前にトイレの香りを」
だめだなありゃ
「凄いな魔導士ではあるのだがな」
「心を読んだ！？」
「声に出していたぞ」
「マジ？、つか誰？」
「紹介が遅れた、エルザだよろしくな」
あ、バカが帰ってきた
「ここから北に行くとワース樹海が広がっている、古代人たちはその樹海にある強大な魔法を封印した
その名は、ニルヴァーナ」
ニルヴァーナ、知らんなん？
「聞かぬ魔法だ」
「ジュラ様は？」
「知らんな」
「てことは青い天馬もよくわかってないんだろ？」
「うん、恥ずかしながらね」
「ちょっとまて」
「どうした、ヒロキ」
「一夜、だったか」
「そうだ」
「てめぇは、誰だ？さっきまでの一夜じゃねぇな」
『『『えっ！？』』』
「匂いと魔力が違うな」
「「ピーリピーリ」」
「バレたね」
「後ろに居る奴、六魔将軍の一人だな」
そうすると奥から女が出てきた
「おいホスト、メンバーね顔を」

ビビビ・・
エンジェルねぇ～
「流石にこの人数が相手だと分が悪いゾ、ここは一時撤退だゾ」
逃げられたか
「作戦は全てバレたな、正面衝突しかないな」

「うっし、燃えて来たぁーー！！！」

六魔将軍討伐任務開始

六魔将軍討伐任務・・・・・・?（前書き）

区切れ悪?

六魔将軍討伐任務・・・・・・？

「では、我々も樹海に行こう」
「俺が全員倒すんだ！」
「待ちやがれナツ！」
やれやれ熱いね

樹海前
「あれが天馬」
「綺麗」
ドォン
「な！」
「来たか光のギルドよ」
あいつらはホストの情報にあった
「てめぇらが六魔将軍か」
「てめぇらなんか俺一人で充分だ」
ちっ、力の違いがわからねぇのか！
「とにかく、やるしかねぇな」
「やれ」
「アイスメイク《ランス》」
ヒュン
「はや――――ぐぁ」
「グレイ！」
「愛など無くとも金さえあれば！！！！！デスネ」
「な、何だ！！？地面が！！！！」
「がっ」
「うわっ」
「ばっ」
「韋駄天流・・・・・最苦論（サイクロン）」

「ちっ」
「ほう、レーサーに攻撃をかすらせるか」
「舞え！！！剣たちよ！！！」
ドドドドド
バッ
「くっそぉ！！！！
お前何寝てんだコノヤロウ！！！
起きろーーっ！！！」
ぐにゃん
「よせよ
ミッドナイトは起こすと怖ぇ」
「んがっ」
「アイスメイク」
パキィ
「つぁっ」
「おらぁ」
「ほう・・・・・これが
エルザ・スカーレットか」
「エルザだけじゃ、ねぇ！」
「見えたデスネ
ネ！！！」
「聞こえるんだよその動き（・・・・）」
かぷ
「はぁ」
あの蛇、毒か！
「韋駄天流・・・・・」
「邪魔をしないでほしいデスネ」
ガコォ
「しまっ」
「ゴミどもめ、まとめて消え去るがよい

常闇回旋曲(ダークロンド)」
「それ、旨そうだな」
龍の魂闇龍(ドラゴンソウル)ダークネス
龍人(ドラゴニュート)モード
ガブモグモシャ
「ゴチ、行くぜ闇龍の息吹！！！」
「なんだと！まだいたのか！ドラゴンスレイヤーが！」
ドコォン
「ちなみに言っとくが俺はドラゴンスレイヤーではないぜ」
「だが、そこにいるウェンディはもらって行くぞ」
「させるか！」
「邪魔をするな」
「ちっ！！
ウェンディ！！！」
「ウェンディ！！！」
「ヒロキさん！！シャルル！！」
「あれ？」
「きゃあああ」
「ナツ！うわー！！！」
「ハッピー！」
「うぬらにもう用はない消えよ！」
「喰らうか、闇黒炎！」
ドゴゴォ
「大丈夫か！？」
「すごいや！！」「ちっ、逃げられた」
「あいつら強すぎる」
ちくしょーーー！！！
「とにかく、怪我の回復と解毒だな」
「私の痛み止めの香りを」
「解毒ならウェンディができるわ」

「あの娘が？」
「解毒の他に解熱や痛み止め、キズの治癒もできるの」
「治癒って・・・・ロストマジックじゃなくて？」
「天空の巫女ってのに関係あるの？」
「あの娘は天空の滅竜魔導士
天竜のウェンディ」
「だが回復と解毒なら今できる」
『『え！？』』
「龍の魂（ドラゴンソウル）発動
天龍グランディーネ」

「よし、回復、解毒完了だ」
「サンキュー」
とにかく、ウェンディは無事だろうか
「なぁ、ヒロキ」
たしか
「エルザ、だったな、で、なんだ？」
「まずは礼を言いたい。ありがとう」
「気にすんな」
「それと、その魔法だ」
龍の魂（ドラゴンソウル）？
「それはどんな魔法なんだ？」
「魔法名は龍の魂（ドラゴンソウル）」
「龍の魂？テイクオーバー系か」
「さぁな
いろんな龍が入っている、
中身は
火龍イグニール―」

「イグニールだと！！」
なんだ！？
「そうか、ナツの龍、イグニールに育てられたんだったね」
そうなのか
「いやいい、すこし驚いただけだ続けていい」
「鉄龍メタリカーナ」
「こんどはガジルの龍だ！」
「天龍グランディーネ
これはウェンディの龍だ
地龍グランドル
水龍アクアビクス
光龍フラッシャー
風龍トルネーガ
氷龍ブリザーナ
雷龍ボルテクス
緑龍グリダガー
龍王バハムート
だな」
「多いわね」
「先ほどは人型になっていたが」
エルザ鋭いな
「あれば龍人（ドラゴニュート）モードだ
ドラゴンスレイヤーと同じように同じ属性のものを喰う事ができる」
「そいつはホントか！？」
「真実だ氷使い」
「グレイだ」
「で、どうするのだ？メェーン」
黙れ爺
「ハッピーを取り戻す！」
「ウェンディを助ける！」

龍の魂発動(ドラゴンソウル)、龍王バハムート龍人(ドラゴニュート)モード
「行くぜ！
シャルル、お前は炎のドラゴンスレイヤーといろ！」
「わかったわ」
「俺の名前はナツだ！」
発進まで・・・・3・・・・・2・・・・・1・・・・・0！！
「GO！！！！」
バーン
多分この効果音が一番良いだろう木が10本位折れたし

樹海中心部
「ウェンディーーっ！！！何処だー！！」
「待ちな！コブラ直属部隊コンバット！
ここで死ね」
邪魔が入ったか・・・・いや、倒して吐かせる
「かかれぇー！」
「メガフレア！」
ドガーン！
瞬殺
「六魔将軍のアジトは何処だ？」
「誰がてm———」
「言え
今の俺はヤバくてな、力加減が難しい、このまま殺しちまいそうだ」
「ひぃ！！
ここから東に行った廃村だ」
「ありがとよ」ドガッ！
俺はそいつを蹴って気絶させた
「東だな
フルスピードだ！」
ドーン

洞窟前
「いた、ナツとグレイだ！
ん！？」
ヒュン
アイツは
六魔将軍！ナツとグレイを狙ってるな
「邪魔じゃ高鼻ぁーー！」
「グハァ！」
「サンキュー」
「助かったぜ」
あそこだな
バッ！タッ
「ウェンディ！！」
「ヒロキさん、ごめんなさい。私」
「何故謝る」
ゴッ
「ガァァァ」
「ヒロキさん！」
「相変わらず凄まじい魔力だな、ジェラール」
痛てぇ
「何っ！！！？」
何だ！？
「ウェンディ大丈夫か？
アイツは？」
「ジェラールはいなくなったよ」
「ジェラール？」
「私の恩人なの」
だがウェンディがわからないとなると記憶喪失だな

「とりあえず戻るぞ」
「あ、青猫上でナツが戦っている。」
「さてとシャルル！」
「なに？ウェンディ！無事だったのね！良かった」
「シャルル、ウェンディを」
「わかったわ」
よし、行ったか

そんじゃ、行くか

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3101x/

フェアリーテイル 龍の魂を持つもの

2011年12月20日01時45分発行